

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-210	17-014	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Contribution of Established Stroke Risk Factors to the Burden of Stroke in Young Adults. 若年成人における脳卒中発症に対する確立された脳卒中危険因子の影響		
執筆者		
Aigner A, Grittner U, Rolfs A, Norrving B, Siegerink B, Busch MA.		
掲載誌		
Stroke. 2017;48:1744-1751;doi:10.1161/STROKEAHA.117.016599		
キーワード		PMID
若年成人、脳卒中、危険因子、患者対照研究、集団寄与危険		28619986
要 旨		
目的： 若年成人における脳卒中は高齢者とは異なる病因や危険因子が想定されるため、若年成人における脳卒中発症に対する確立された潜在的に修正可能な循環器疾患危険因子の影響について研究する。		
方法： 2007-2010年にSIFAP1研究(Stroke In Young Fabry Patients)に登録された患者と2009-2010年の一般住民コホートGEDA研究(German Health Update)の対象者によるドイツ全国の患者対照研究である。患者は26の脳卒中センターから18-55歳の急性初回脳卒中患者2,125人、対照は脳卒中既往がなく年齢、性別を一致させた8,500人を一般住民コホートから選出した。高血圧、脂質異常症、糖尿病、虚血性心疾患、喫煙、大量飲酒、運動不足、肥満の8つの危険因子とその組み合わせについて調整集団寄与危険を全脳卒中、虚血性脳卒中、脳内出血に対して算出した。		
結果： 運動不足と高血圧は最も重要な危険因子であり、全脳卒中に対して59.7%(95%信頼区間:CI:56.3-63.2)と27.1%(95%CI:76.3-81.4)を説明した。8つの全ての危険因子を組み合わせると全脳卒中の78.9%(95%CI:76.3-81.4)が説明可能であった。		
結論： 高齢者で確立された危険因子は若年成人患者における脳卒中の大部分を説明した。高血圧、運動不足、喫煙、飲酒の4危険因子で全脳卒中の約80%を説明した。		